

たたえようこれまでの道
彩ろう未知なる明日

日本女性会議 2018 in 金沢

Japan Women's Conference
2018 in Kanazawa

10/12 FRI | 13 SAT | 14 SUN

メイン会場

全体会議
物産展

金沢歌劇座 (金沢市下本多町6番丁27番地)

分科会会場

金沢歌劇座・金沢商工会議所・石川県政記念しいのき迎賓館・石川県文教会館・
石川県教育会館・北國新聞赤羽ホール

交流会会場

金沢東急ホテル

10/12 金	13:00 開会 アトラクション	13:10 開会式	13:30 基調報告	15:00 分科会	18:00 交流会
10/13 土	9:30 記念講演	11:00 分科会報告	13:00 アトラクション	13:30 記念 シンポジウム	15:30 閉会式

10/14 日	エクスカーション
---------	----------

主催：日本女性会議2018 in 金沢実行委員会・金沢市 [事務局]金沢市市民局人権女性政策推進課内
〒920-8577 石川県金沢市広坂1-1-1 TEL:076-220-2095 FAX:076-260-1178 E-mail:jwc2018kanazawa@city.kanazawa.lg.jp
ホームページ: <https://jwc2018kanazawa.jp/>



日本女性会議
2018 in 金沢
Japan Women's Conference
2018 in Kanazawa

10月12日(金)

13:00～13:10 開会アトラクション(受付 11:30～)
13:10～13:30 開会式
13:30～14:00 基調報告
15:00～17:00 分科会
18:00～19:30 交流会

会場：金沢歌劇座ホール

開会アトラクション

13:00~13:10(受付 11:30~)

金沢素嚙子

金沢市の無形文化財に指定されている金沢素囃子は、加賀百万石が誇る伝統芸能であり、その格調の高さは全国でも高評価を受けています。

開会式

13:10~13:30

基調報告

13:30~14:00

男女共同参画に関する最新状況の報告です。(内閣府男女共同参画局)

分科会

15:00~17:00

〈会場〉各会場

各分科会会場へ徒歩、シャトルバスで移動します。

▶分科会の詳細は中面左ページをご参照ください。

金沢歌劇座からの徒歩移動(所要時間目安)

石川県政記念しいのき迎賓館(6分)、石川県教育会館(10分)、金沢商工会議所(13分)、石川県文教会館(14分)、北國新聞赤羽ホール(11分)

会場：金沢東急ホテル

交流会

18:00~19:30

金沢の魅力のひとつが「食」です。海にも山にも近い金沢には、新鮮で品質の高い食材が豊富です。皆様に美味しい地酒と旬の魚、加賀野菜など地元の素材を活かしたお料理でおもてなしいたします。

周辺施設を散策!!

開催期間中(10/12~14)に限り、**日本女性会議2018in金沢の参加証を提示すると、金沢歌劇座周辺の以下の施設の入館料等が割引となります。**ぜひ、併せてご利用ください。



※鈴木大拙館以外は、写真提供:金沢市

10月12日(金)

分科会 15:00~17:00

分科会 1 【防災・まちづくり】
**一人ひとりが大切にされる
 防災・減災のまちづくりをめざして**
 ～かけがえのない“いのち”に寄り添う～

内容 災害は社会の脆弱な部分に集中的に被害をもたらします。災害時要配慮者をめぐる諸課題の中には、自然災害のたびに繰り返されているものが少なくありません。わが国が災害大国であることを踏まえれば、対策は待ったなしです。金沢コミュニティ防災士を中心とした地域レベルの具体的な取り組みを手掛かりに、被害の不等性の克服に向け、過去の災害の教訓を平時の地域コミュニティに組み込むための可能性と住民中心のまちづくりについて考えます。

出演者 **パネルディスカッション**

講師・コーディネーター	田中 純一	北陸学院大学教授
パネリスト	浦野 愛	NPO法人レスキュー・ストックヤード常務理事
パネリスト	花岡 暁子	金沢市長土堀自主防災会
パネリスト	竹田 雅	金沢市三馬地区防災士会

会場 石川県教育会館 第1会議室 **定員** 150人

分科会 2 【国際理解】
多様な人と文化の共生をめざして
 ～歴史都市金沢の国際化の現状と課題～

内容 歴史都市として知られる金沢は外国人観光客にも大人気です。外国人住民も増えています。この街は近年、多様な言語・民族・宗教の人々が行き交い、ともに暮らす街へと急速な変化をとげています。しかし、街も住民達の多くも、まだその変化について行けているとは言えません。伝統的な暮らしの良さを活かしつつ多様性に対応していくためには何が求められるのか、様々な立場から金沢で活動してきたパネリストの経験を共有しながら、会場の皆さんと一緒に考えます。

出演者 **パネルディスカッション**

コーディネーター	岸田 由美	金沢大学理工研究域准教授
パネリスト	田中 尚人	アドビネスセンター理事長
パネリスト	柳川 秀子	日本語学習支援ボランティア
パネリスト	ヒクマルバレイド	金沢大学留学生支援地域アドバイザー

会場 石川県政記念しいのき迎賓館 ガーデンルーム **定員** 90人

分科会 3 【政治への参画】
議会の景色を変えてみよう
 ～2019年 統一地方選 変えるのは、今！～

内容 5月23日 政治分野における男女共同参画推進法成立。女性議員は国会のみならず、県市町のどの議会においても相変わらず少数派。なぜ、女性たちは政治の世界から遠いのでしょうか。石川県内議会では子ども議会開催が活発で、議員構成は男女半々。子どもらが描く議会の景色は、すでに男女共同参画社会です。前尼崎市長の体験や女性議員比率が4割を超える小井井市議会・島本町議会の活動、そして地元金沢市議会の現状から、一人ひとりの「できる」を探り、行動の一步を持ち帰しましょう。

出演者 **ミニ講演・パネルディスカッション**

講師・パネリスト	白井 文	前尼崎市長
パネリスト	吹香 やすたか	小金井市議会議員
パネリスト	戸田 靖子	大阪府島本町議会議員
パネリスト	久保 洋子	金沢市議会議員
進行	常光 利恵	石川県各種女性団体連絡協議会会長

会場 金沢商工会議所 ホール **定員** 198人

分科会 4 【働き方】
**日本のこれまでの労働環境を
 女性が変わる、女性も変わる**
 ～皆が幸せになれる働き方への転換～

内容 「女性活躍」が叫ばれる中で、ジェンダーギャップ指数は毎年最低を更新し続け、働く女性の7割以上は管理職への昇任を望まないというデータが出るなど、依然として女性の活躍は進んでいないのが現状です。企業と女性がともに成長し、働きやすい職場を作っていくためには何が必要か、また、女性自身の決意と覚悟を促すために何ができるかを考えます。

出演者 **ミニ講演・パネルディスカッション**

コーディネーター	宮原 淳二	株式会社経営研究所ダイバーシティ&ワークライフバランス推進部長
講師・パネリスト	大槻 奈巳	聖心女子大学人間関係学科教授
パネリスト	近藤 宣之	株式会社日本レジャー代表取締役会長
パネリスト	高 由紀	エキスパート・フラップ株式会社取締役

会場 石川県教育会館 ホール **定員** 344人

分科会 5 【貧困と子どもの権利】
**学ぼう！
 子どもの今と未来について！**
 ～子どもの豊かな成長を保障するために～

内容 子どもの豊かな成長を阻害する要因として、今、貧困の問題が大きくクローズアップされています。貧困によって子どもの学び・進学・成人後の就労などが大きく影響を受けますが、子どもの権利保障の観点から言えば、子どもの育つ権利をはじめとする諸権利が保障されない状況といえます。貧困によって、子どもは学力や生活(食事・衣服)のみならず、将来への希望、あるいは自己肯定感を失ってしまうところにこの問題の深刻さがあります。今回は、子どもの権利保障の観点から子どもの貧困問題を考えてみます。

出演者 **パネルディスカッション**

コーディネーター	荒牧 重人	山梨学院大学教授
パネリスト	明橋 大二	真生会富山病院心療内科部長
パネリスト	多田 元	NPO法人子どもセンターパオ理事長
パネリスト	荘保 共子	NPO法人こどもの里理事長

会場 金沢歌劇座ホール **定員** 600人

分科会 6 【医療における性差】
健康寿命延伸における性差を考える
 ～男女のプレコンセプションケア(妊娠前ケア)から
 医療介護力まで～

内容 人口減少をたどる中、人生100年時代が到来。世界に類を見ない少子高齢化時代を乗り越えるための課題が山積み、どのように解決していくかが世界が注視しています。ウイメンズヘルス、メンズヘルスの性差の視点で生物学的特性を理解し、より良い医療・看護・介護を学び、健康寿命延伸の実現のための知恵を得ましょう。

出演者 **ミニ講演・パネルディスカッション**

講師	対馬 ルリ子	NPO法人女性医療ネットワーク代表
講師	堀江 重郎	日本メンズヘルス学会理事長
パネリスト	赤澤 純代	金沢医科大学病院女性総合医療センター副センター長
パネリスト	久藤 妙子	社会福祉法人篤善会理事長

会場 北國新聞赤羽ホール 交流ホール **定員** 196人

会場: 石川県教育会館 **1** **4** しいのき迎賓館 **2** 金沢商工会議所 **3** **8** 金沢歌劇座 **5**
北國新聞赤羽ホール **6** 石川県文教会館 **7** **9**

分科会 **7** 【DV・ハラスメント】
#MeTooから#WeTooへ
わたしたちはもう我慢しない
～すべての暴力にNO!意識レベルからの変革と行動、「これから」をつくる～

内容 弱者に対する暴力、DV、ハラスメント、性暴力、虐待はなぜなくならないのでしょうか。
声を上げにくい社会の問題は何なのでしょう。
「わたしたちはもう我慢しない」と声を上げた人々を孤立させない社会と意識レベルからの変革のために再度課題を探り、解決につなげる行動を起こしましょう。男女平等社会実現のための「これから」を一緒に考えます。

出演者 ミニ講演・パネルディスカッション

講師・コーディネーター	上野 千鶴子	NPO法人ウィメンズ アクションネットワーク理事長
パネリスト	牟田 和恵	社会学者・大阪大学大学院人間科学研究科教授
パネリスト	小瀬部 さやか	NPO法人マタハラNet創設者(株)natural rights代表取締役
パネリスト	伊藤 詩織	ジャーナリスト

会場 石川県文教会館 ホール 定員 590人

分科会 **8** 【農林水産】
みんなで、元気に暮らそう!
～里・山・海の恵みを未来に～

内容 農業の大規模化を推進する「攻めの農業」や、食の安全や地域の暮らしを守るカギは「兼業農家」との声の中、日本一小さい専業農家「風来」の、ゆとりの生活を楽しみつつ、仕事としての農業の無限の可能性をお聞かせします。そして、奥能登で地域農業のリーダーとしての女性の活躍、森づくりを自分事として感じてほしいと林業女子会の活動、水産業における女性達の新たな取り組みなどを通して、里・山・海の恵みを未来につなぎ、いのちをはぐくみ続けるために、今、私たちができることを共に考えます。

出演者 ミニ講演・パネルディスカッション

講師・パネリスト	西田 栄喜	風来代表(能美市)
パネリスト	西中 宏美	西中農園代表(能登町)
パネリスト	砂山 亜紀子	もりらパー林業女子会@石川 代表(金沢市)
パネリスト	藤田 寿代	JF石川七尾支所参事(七尾市)
進行	南川 美恵	農山漁村女性応援団(白山市)

会場 金沢商工会議所 研修室 定員 144人

分科会 **9** 【性の多様性】
LGBT/SOGI(ソジ)
いま求められていること
～一人ひとり私らしく生きられる社会を～

内容 男女共同参画基本計画では、2010年の第3次計画から、性的指向・性自認(SOGI)を理由とする困難への取り組みが明記されています。この分科会では各自治体での取り組みの実情と課題を知るとともに、当事者のかかえる困難について、これから男女共同参画にどう位置づけ、一人ひとりがどのように関わっていくことができるのかを考えます。

出演者 パネルディスカッション

コーディネーター	谷口 洋幸	金沢大学国際基幹教育院准教授
パネリスト	中村 吉基	日本キリスト教団牧師
パネリスト	岩本 健良	金沢大学人文学部准教授
パネリスト	矢野 恵美	琉球大学法科大学院教授
パネリスト	佐藤 美和	お茶の水女子大ジェンダー研究所研究員

会場 石川県文教会館 大会議室 定員 120人

大会シンボルマーク



糸が縫りあって紐になるイメージを、金沢を象徴する鼓門の形状に重ね合わせデザインしています。繊維のしなやかさ・強さ・優美さ、そして単位が集まり強い構造を作るイメージから、日本女性会議のこれまでの歩みと未来への継続性を表現しています。



10月13日(土)

9:30~10:45 記念講演(受付 9:00~)
11:00~11:30 分科会報告
11:30~13:00 休憩
13:00~13:20 アトラクション
13:30~15:30 記念シンポジウム
15:30~16:00 閉会式

会場：金沢歌劇座ホール

記念講演

9:30~10:45(受付 9:00~)

「能の道を歩む」～私の生きがい～



加賀藩前田家が庶民にも広く能楽を推奨したことから、「加賀宝生」として独自の発展を遂げ、かつて、金沢は「空から謡が降ってくる」と言われるほど、能楽が盛んでした。

宝生流能楽師として活躍する松田さんに、男性主導の能楽界におけるご自身の歩みや、妻として、母として、悩み、奮闘する日々を通して得たものなど、自分らしく輝くヒントをお話いただきます。

講師

松田 若子 (宝生流能楽師)

金沢市出身。宝生流能楽師 故渡邊容之助 長女。3歳より祖父と父の稽古を受け初舞台。幼少期は子方で舞台出演。東京藝術大学音楽学部卒、同大学院能楽専攻修了。2014年 重要無形文化財(総合指定)認定。主な演能 能「乱」、能「石橋」披露。東京藝術大学卒業演奏 能「花月」。海外友好公演フィンランド 舞囃子「船弁慶」、同韓国 半能「胡蝶」。国立劇場劇場50周年記念 国立能楽堂企画公演「女性能楽師による」仕舞「玉ノ段」。兼六園周辺文化の森ミュージアムウィーク加賀宝生の魅力「ろうそく能」能「井筒」。日本能楽会会員。金沢市加賀宝生子ども塾運営委員会委員・梅鶯会講師。福井大学非常勤講師。沢鏡会主宰。

分科会報告

11:00~11:30

アトラクション(マーチング演奏)

13:00~13:20

記念シンポジウム

13:30~15:30

「これからの生き方・働き方のカタチ」～「結婚」の選択肢が不人気なわけ～



ライフスタイルや価値観が多様化する現代。仕事・結婚・子育て・介護などさまざまなライフステージにおいて、私たちを取り巻く環境も変化しています。現代女性が抱える生き方や働き方にかかる障壁と向きあいながら、自分らしく生きることについて考えます。

講師・シンポジスト

おおたわ 史絵 (総合内科専門医・作家)

東京下町出身、東京女子医科大学卒業。通常の診療のほか、障害児童診療や北アルプス夏山診療ボランティア、愛犬とのアニマルセラピーボランティア(CAPP companion animal partner ship program)などにも従事。1996年、週刊朝日「デキゴトロジー」にて執筆活動を開始。2005年には、医学生時代からの半生を綴った自叙伝的エッセイ「女医の花道!!」を出版してベストセラーになる。近著は「ヒトは医学で恋してる!」(文芸社) 日本内科学会認定 総合内科専門医、日本内科学会認定 内科医、日本医師会認定 産業医



コーディネーター
小関 誠

AIG 損保シニアアドバイザー
元 AIU 損害保険株式会社
代表取締役社長兼 CEO

2010年7月にチャリティホールディングス(現AIGホールディングス)取締役専務執行役員兼COOとして着任。AIU保険会社代表者会長兼CEOを経て2013年4月にAIU損害保険株式会社代表取締役社長兼CEO、2016年12月より代表取締役副会長に就任。2017年4月より副会長、同年12月に退き、現在は、独立経営コンサルタントとして戦略策定支援及びリーダーシップ開発等の人材開発の仕事を手がけている。



シンポジスト
塩谷マクスダ

公立小松大学准教授
インド料理ルビーナオーナー

インド、ジャモカシミール州出身。カシミール大学大学院博士課程修了後、モンゴル国立大学に留学。野々市市でインド料理「ルビーナ」を経営し、食文化を通して国際交流を進める。現在、公立小松大学国際文化交流学部准教授、石川インド協会会長、関連NGOアジア・ユーラシアヒューマンライフフォーラム副会長等幅広い活動を行っている。



シンポジスト
鈴木 規秀

鈴木建設株式会社
代表取締役社長

大学卒業後、民間企業を経て2005年に鈴木建設株式会社入社。2018年6月に代表取締役社長に就任。JCI世界会議金沢大会実行委員長や公益財団法人金沢青年会議所理事長を歴任し、2016年に金沢市長とともに「イクボス共同宣言」を行う。

閉会式

15:30~16:00

後援・実行委員会

たたえようこれまでの道
彩ろう未知なる明日



日本女性会議
2018 in 金沢
Japan Women's Conference
2018 in Kanazawa

■後援

内閣府／文部科学省／厚生労働省／石川県／石川県教育委員会／金沢市教育委員会／石川県
市長会／石川県町長会／石川県市議会議長会／石川県町村議会議長会／石川労働局／公益社
団法人日本医師会／公益社団法人石川県医師会／金沢大学／金沢医科大学／独立行政法人国
立女性教育会館／北國新聞社／朝日新聞金沢総局／北陸中日新聞／毎日新聞北陸総局／読売
新聞北陸支社／時事通信社金沢支局／共同通信社金沢支局／日本経済新聞社金沢支局／石川
テレビ放送／テレビ金沢／NHK金沢放送局／北陸放送／北陸朝日放送／金沢ケーブルテレ
ビネット／エフエム石川

■実行委員会等

■大会長 金沢市長 山野 之義

■副大会長 神谷 ますみ

■実行委員会

委員長	八重澤 美知子					
副委員長	西野 茂	能木場由紀子	宮川 昌江			
事務局長	原田 昭彦					
監事	宮前 克宏	菅村美知子				
委員	赤澤 純代	朝倉 宏太	坂井 明美	坂矢昶央美	常光 利恵	
	高木真理子	中村 大介	西脇 ゆり	橋本 雄一	福多 唯	
	福光太一郎	藤井佳代子	森田 郁代	山崎 圭亮	若松恵美子	
総務部会	◎菅村美知子	○福多 唯	赤澤 純代	福光太一郎	宮前 克宏	
おもてなし部会	◎坂井 明美	○西脇 ゆり	中村 大介	森田 郁代	山崎 圭亮	
式典・講演部会	◎若松恵美子	○坂矢昶央美	高木真理子	藤井佳代子		
分科会部会	◎高木真理子	○常光 利恵	赤澤 純代	朝倉 宏太	坂矢昶央美	
	菅村美知子	橋本 雄一	森田 郁代	若松 恵美子		

※◎は部会長、○は副部会長

分科会運営団体

- 分科会1 金沢市男女共同参画アドバイザー連絡会、金沢市校下婦人会連絡協議会、
金沢市町会連合会
- 分科会2 金沢ゾンタクラブ、国際ソロプチミスト金沢、金沢大学
- 分科会3 石川県各種女性団体連絡協議会、男女共同参画を拓く会
- 分科会4 石川県中小企業団体中央会、一般社団法人石川県経営者協会若手経営者の会、
公益社団法人金沢法人会、一般社団法人金沢経済同友会、
公益社団法人金沢青年会議所
- 分科会5 子ども夢フォーラム、金沢PTA協議会
- 分科会6 学校法人金沢医科大学女性総合医療センター、
女性のためのセルフディフェンス Wen-Do Japan
- 分科会7 石川県男女共同参画推進ネットワーク、金沢大学
- 分科会8 石川県各種女性団体連絡協議会、公益社団法人金沢青年会議所
- 分科会9 石川県男女共同参画推進ネットワーク、金沢まちづくり学生会議

ニセンジュウハチ
日本女性会議2018 in 金沢
大会宣言

1. 私たちは、強い意志を持ち、
これからも継続して男女共同参画の実現に向けて
あらゆる課題に取り組みます。

1. 次の時代を生きる若い世代の一人ひとりが、
個人として尊重され、
その才能を十分に発揮できる
地域づくり、社会づくりに取り組みます。

1. SDGs 目標5「ジェンダーの平等」を絶えず意識し、
女性を取り巻く世界の動きと連動し、
身近な課題にも情熱をもって取り組みます。

日本女性会議の概要報告

目黒女性団体連絡会から佐々木照子と郡玲子が参加しました。概要は以下のとおりです。

一日目 開会式等

金沢歌劇座を会場として開会式等が行われました。開会アトラクションの加賀百万石が誇る伝統芸能である「金沢素囃子」で始まり、副大会長の神谷ますみさん（日本経済団体連合会審議員）の開会宣言の後、大会長の山野之義金沢市長は「35 回目となる金沢大会は『たたえようこれまでの道 彩ろう未知なる明日』をテーマとして、多様な生き方が尊重され誰もが生きがいや希望を持って暮らせる男女平等共同参画社会の実現に向けて、市民団体からなる実行委員のみなさんとの協働で準備を進めてきた。」と話されました。

続いて実行委員長の八重澤美知子さん（金沢大学特任教授・金沢大学名誉教授）の主催者あいさつの後、谷本正憲石川県知事、清水邦彦金沢市議会議長から来賓祝辞がありました。基調方向については次のとおりです。

○基調報告「フェアネスの高い社会の構築に向けて」

内閣府男女共同参画局長 池永肇恵さん

女性活躍推進法により女性の就業率等は上がったが、男女賃金格差は未だ 73.6%、介護、看護離職は 7 割が女性である。子育てにおける国際比較でも 5 歳未満の子のいる家庭で男性の家事・育児に従事する時間は 83 分、育児休業も男性の取得は少ない。男性の意識や長時間労働が問題。上場企業の女性役員は 6 年で 2.7 倍となったが、10%の目標に対し 4.1%である。株式パフォーマンスとしては女性 1 人以上の取締役がいると高くなる。女性のセンスや購買力、多様な視点など女性の経済に対する貢献度は高い。

多様な働き方として時間、場所に制約されないテレワークは満足度、生産性、やりがいがあるものだ。女性リーダー研修では参加者のネットワークも期待されている。

女性活躍推進法により、女性の活躍推進に向けた数値目標を盛り込んだ行動計画の作成・公表や女性の職業選択に関する情報の公表が事業主に義務付けられた。（300 人以下の民間企業等は努力義務）5 月に施行された

「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」では男女の候補者の数ができる限り均等になることを目指す、としている。都道府県議会における女性議員の比率では京都が 1 位、石川県は 37 位である。



一日目 分科会等

基調報告の後、9つの分科会が開催され、参加者は各会場に分かれ移動し、それぞれの分科会で学びました。

分科会後の交流会では金沢市民謡協会による民謡の舞台で歓迎をしていただきました。また、各テーブルでは全国各地からの参加者同士の交流が行われました。（参加した分科会については後半で報告）

二日目 記念講演

記念講演は宝生流能楽師の松田若子さんで、初めに「船弁慶」の能舞台を演じてくれました。お話の概要は以下のとおりです。

能は祈りの芸能といわれる。藩主も能を舞い、「空から謡が降ってくる」と言われる金沢の地で能楽師の祖父と父、祖母は小鼓、母は大鼓という家に生まれた。もとは猿楽と言いま世阿弥によって大成されたものが、明治になって「能楽」として確立した。600 年を超える歴史がある。能楽は男性が行うものとされ、女性は鑑賞や趣味・教養で習うものであった。子方をやるようになり男の子の姿にさせられ、はたの人から男の子と間違われた。祖父と父がノートにセリフなどを書いて仕込んでくれた。

大学は東京芸術大学音楽学部邦楽科の能楽専攻に進んだが、しょせん女性なのでもったいない、先生のお骨折りを無駄にしては申し訳ないという思いだった。稽古は手取り足取りで、舞い、謡の指導は厳しかった。笛、小鼓、大鼓の実技、一般教養もあり6年学んだ。父には、女性はこのまま能楽師になれるか、不可能ではないか、と言われ、この先の道を迷った。金沢大学のサークルの宝生会講師を務めていたが、大学院時代に年1回の発表会に寄せた一文には、能楽師にはなりません、と書き、家族にも教授にも叱られた。いばらの道を進む勇気がなかったが、仕込まれたことを後輩に伝えていくべきだと思った。

中学を卒業後10年して定例能の舞台に立った。父からは男性に近づくよう女性であることを忘れなさい、女性の役も男性が女性を演ずるようにやりなさい、と言われていた。父も恩師も他界した後、平成16年に現役の女性能楽師への認定が始まり社会から認知されることになった。男性とは体形が違い、能面も小ぶりのものをつくってもらっている。

子どもは2人おり妊娠5か月でも演じていた。民間のベビーシッターや父の協力もあり苦しいと思うことはなかった。次男が小学校のとき、母の具合が悪くなった。趣味で茶道や書道も続けていたが自分の限界が訪れ、骨盤の関節炎で5週間入院し、その後歩行訓練をして入院から2か月半後に定例能に出演した。長男が子方をやり共演することもできた。母が亡くなり父一人となったがまわりの人に支えられて過ごしていた。母の3回忌後父も亡くなった。父と私が共演した同じ舞台で次男と共演した。稽古に没頭し自分で自分を支えていた。能に包まれ守られていた。

能楽の舞台の上では女性は万能ではない。女人禁制がしかれているものもあり、それは「しきたり」と理解したが、両親はどうやって心を整理していたのだろうかと思う。言葉にならないものがあるが、自分を信じて前に進んでいこうと思い、プロの女性能楽師を各地から呼んで女性能楽師のみで演ずる能楽競演事業に取り組んでいる。第1回目は来年3月21日、石川県立能楽堂にて行う。多くのひとに能を好きになってもらいたい。



最後に、祝言のときの謡「高砂」をみんなで謡いましょう、とお手本をみせてくれ、会場の参加者の声の一つとなり、感動に包まれた中でお話が終わりました。

次に、一日目に行われた 9 つの分科会で話された内容について、各分科会の代表の方から報告が行われました。午後の部の最初には、創部 87 年を迎える遊学館高等学校吹奏楽部皆さんの華やかな演奏の舞台を楽しみました。

二日目 記念シンポジウム

これからの生き方・働き方のカタチ～「結婚」の選択肢が不人気なわけ～

講師・シンポジスト：おおたわ 史絵（総合内科専門医・作家）

東京下町出身、東京女子医科大学卒業。通常の診療のほか、障害児童診療や北アルプス夏山診療ボランティアなどにも従事。1996 年、週間朝日「デキゴトロジー」にて執筆活動を開始。2005 年には、医学生時代からの半生を綴った自叙伝的エッセイ『女医の花道！』を出版してベストセラーになる。近著は『ヒトは医学で恋してる！』（文芸社）。

コーディネーター：小関 誠（AIG 損保シニアアドバイザー、元 AIU 損害保険株式会社代表取締役社長兼 CEO）

2010 年 7 月にチャールティスホールディングス（現 AIG ホールディングス）取締役専務執行役員兼 COO として着任。AIU 保険会社代表者会長兼 CEO を経て 2013 年 4 月に AIU 損害保険会社代表取締役社長兼 CEO、2016 年 12 月より代表取締役副会長に就任。2017 年 4 月より副会長、同年 12 月に退き、現在は、独立経営コンサルタントとして戦略策定支援及びリーダーシップ開発等の人材開発の仕事を手がけている。

シンポジスト：塩谷 マスクーダ（公立小松大学准教授・インド料理ルビーナオーナー）

インド、ジャモカシミール州出身。カシミール大学大学院博士課程終了後、モンゴル国立大学に留学。野々市市でインド料理「ルビーナ」を経営し、食文化を通して国際交流を進める。現在、公立小松大学国際文化交流学部准教授、石川インド協会会長、国連 NGO アジア・ユーラシアヒューマンライフフォーラム副会長等幅広い活動を行っている。

シンポジスト：鈴木 規秀（鈴木建設株式会社代表取締役社長）

大学卒業後、民間企業を経て 2005 年に鈴木建設株式会社入社。2018 年 6 月に代表取締役社長に就任。JCI 世界会議金沢大会実行委員長や公益社団法人金沢青年会議所理事長を歴任し、2016 年に金沢市長とともに「イクボス共同宣言」を行う。

まずおおたわさんは「今、医学部受験での差別問題が起きているが、私が医学部を受けたときも、女子は受かりにくいと言われていた。小中高と東京教育大学付属の学校で男女ものすごく仲が良かった。私の入った東京女子医科大学は世界で一つの女性だけの医科大学であるが、他の医大の話を聞いて、黒板を消すのは女子の役目?などの話を聞いて変だなと思った。男尊女卑があるのを初めて感じた。私立大学附属病院に研修に行くとうちは女医はいらないと言われた。『お婿さんを探しに来たんでしょ』などハラスメントの温床だっ

た。女性は妊娠・出産・育児があることで差別される現状がある。」と経験に基づくお話をされました。

鈴木さんは、「中小企業である鈴木建設では下水道工事や耐震工事、太陽光パネル設置、住宅・マンションの建設などを行う会社であるが、2016 年金沢青年会議所理事長になり、イクボス宣言を行った。イクボスとは育児を応援するボス、ということで、金沢イクボス企業同盟では2〜3 か月に1 回研究会を開いている。会社では役員にイクボスを理解してもらい、自身の生活と仕事を楽しむことを目指している。子どもの運動会には参加するよう働きかけたりしている。社員は53 名、うち女性が12 名。女性で既婚者は2 名だけであるが、結婚していないのは仕事が理由ではない。」等、会社の状況をお話いただいた。

マスクーダさんは「石川県で初めてのインド料理店を30 年間経営している。専門は歴史であるが、日本人と結婚し義母と一緒に店をやるようになった。日本語を猛勉強し、来日3 か月のときスピーチコンテストで2 位になった。またファンドを集めてインドでジャパンフェスティバルを行うなどしている。インドでは女性パイロットもいる、外務大臣、防衛大臣、中国大使は女性である。日本は経済発展の面は進んでいるが社会的発展は遅れている。」とインドと日本の違いなどをお話いただいた。

その後のディカッションでは、生涯未婚率の問題などに関して、鈴木さんは「結婚以外に選択肢がある、シングルマザーで内縁の夫がいるなど、結婚しなくても問題ないという人たちがいる」、マスクーダさんは「インドは結婚や親が決めるが結婚がすべてではない。自分は家族の仲がよく家が楽しかったので自分も早く結婚したかった。」おおたわさんは「コントロールできないものへの苦手意識があるのでは、思い通りにならないものが怖い、人が怖い、出産に対してもしかり。」と話された。

小関さんからの仕事の継続、キャリアアップ、職種の選択についての問題提起に対しては、鈴木さんは「産育休制度はあるが、結婚して退職していく人が多く残念だった。」マスクーダさんは「インドでは大家族のため仕事を続けていける。日本では総合職はスキルトレーニングができるが、一般職は職場の花、お茶くみ、補助的仕事がまだ多い。女性の意識を変えること、職場環境を整えさせることが大切。」おおたわさんは「介護で休む人の場合、難しさがある。」と話されました。

今後に向けては、社会のしくみ、会社のやり方を変えていくことが必要、管理職になることが女性の幸せではない時代になっている、自分の国の制度をもっと学んで利用すべきだ、建設業はキツイ、キタナイ、キケンの3Kでなく、感動、感謝、貢献の3Kに変えていきたい、日本は恵まれているので自分が何をしたいのか考え、諦めなければ可能性はいっぱいある、などが出され、「参加すること」「夢を見ること」「努力すること」「諦めないこと」を大事にしていこうというまとめとなりました。

二日目 閉会式

閉会式では、次年度開催地である栃木県佐野市からのメッセージなどがあり、最後に大会宣言を採択して二日間の会議は幕を閉じました。

日本女性会議に参加して

目黒区女性団体連絡会

佐々木 照子

分科会報告

分科会 3 政治への参画 ミニ講演・パネルディスカッション

議会の景色を変えてみよう ～2019 年 統一地方選 変えるのは、今～

2018 年 5 月 23 日 政治分野における男女共同参画推進法が成立しました。しかし女性議員は国会のみならず、県市町のどの議会においても相変わらず少数派です。なぜ、女性たちは政治の世界から遠いのでしょうか。石川県内議会では子ども議会の開催が活発で、議員構成は男女半々であり、子ども達が描く議会の景色は、すでに男女共同参画社会です。本分科会では、女性で首長を経験された方や女性議員の割合が高い市町での、政治における女性活躍を学びます。

前尼崎市長の体験や女性議員比率が 4 割を超える小金井市議会・島本町議会の活動、そして地元金沢市議会の現状から、一人ひとりの「できる！」を探り、行動の一步を持ち帰りましょう。

○会議が始まる前にコーディネーターの常光利恵氏より 3 件の問いかけがありました。

1 件目は「皆さん地域に、女性議員がいらっしゃいますか？」2 件目は「町会長は男性ですか？女性ですか？」3 件目は地域に女性防災士がいらっしゃいますか？」結果は殆んど女性の方はいらっしゃいませんでした。

講師・パネリスト：白井 文（前尼崎市長・（一財）大阪府男女共同参画推進財団業務執行理事・大阪樟蔭女子大学客員教授）

1993 年尼崎市議会議員不正出張問題で市議会が解散。その出直し選挙に出馬し当選。2 期 8 年間、政党や会派に所属せず活動。2002 年 12 月全国最年少女性として尼崎市長に就任。公開と協働参画を基本として、財政再建と福祉のバランスのとれた市政運営を目指し、2 期 8 年間取り組む。稲村和美市長にバトンをつなぎ、2 代続けての女性市長は尼崎市が全国初である。

○人口 46 万人の尼崎市の女性市長でいらっしゃいます白井文氏の講演から始まりました。

先ず議員になって変えて行きたいと願って市議に挑戦しました。市議に挑戦する中で多くの市民、特に女性の声を聞き多くの支援によって市議に当選しました。市議会議員の活動から次の新しいチャレンジの市長選につながりました。国とのパイプを強調する対立候補に対して、もっともっと身を切る改革を強く訴えて来ました。尼崎市民は「身を切る改革」の私を選んで下さいまして女性市長となりました。

ここで会場から大きな熱い拍手が湧き起って熱気に包まれました。

市長として 2 期勤め、私の後も女性の市長にバトンタッチ出来ましたと、育てる事に力を注いだ心意気が伝わって来ました。

パネリスト：吹春 やすたか（小金井市議会議員）

1961 年生まれ。福岡県出身。高校卒業後、27 歳でインターネット通販や Web 作成の会社を起業。39 歳で離婚しシングルファザーとなる。子育て中心の生活を送るため、自身の会社を廃業し多くの仕事を経験。様々な職種や PTA 会長を歴任する中で、高い能力の女性達の存在に気づく。女性ならではの目線、捉え方、判断、行動力を最大限活用する事で、多くの課題を解決できると考えている。現在、会派 5 人中唯一の男性議員として活動中。
○27 歳でインターネット通販の会社を立ち上げ、39 歳で離婚し、子育てに専念するため廃業し、人口 12 万人の小金井市の市議会議員になりました。小金井市議会は女性の比率が 41 パーセントであった。吹春さんは、会派 5 人中 4 人が女性議員であることから「女性リーダーを受け入れる社会の下地が出来ている。そこに飛び込む勇気だ」と考えた。女性の目線、意見、考えで議会に提言している。議長、副議長、監査役共々女性である。現在シングルファザーで頑張っているとの事でした。

パネリスト：戸田 靖子（大阪府島本町議会議員）

1961 年京都市生まれ。30 代、夫の海外駐在に伴い香港に住み、多様な価値観に触れる。親族や行政の支援はなく妊娠・育児を経験。自己決定能力と自立の重要性を体感。1997 年香港の中国返還の日、今の政治が未来を創ることを実感。女性参政権への内発的めざめを得て 1999 年に帰国。2009 年草の根市民派・女性議員の勇退に伴い立候補を決意。「ひとが主役のまちづくり」（市民自治）が活動のキャッチフレーズ。現在 3 期目。
○「女性が社会参加、議員を目指すための養成講座」などに関わっている事を強調されていました。（下記※参照）人口 3 万人の大阪府島本町議会は女性比率 40 パーセント越え、女性議員としてバトンをつなごうと活動し、議会傍聴を呼びかける活動に力を注いでいるとの事でした。

※一例として、「女性高校生のためのサマースクール ガールアップセミナー 2018」（大阪府男女共同参画推進財団主催）計 3 回の講座に延べ 50 人が参加。NGO 職員や新聞記者など、幅広い職種で働く女性がサポーターとして出席。最終日には「自分らしくいるために大切なこと」を考え、発表。「自分のいいところを認めて、自信を持つ」など、様々な思いが語られた。

パネリスト：久保 洋子（金沢市議会議員）

1943 年生まれ。国立金沢病院看護学校卒業後、同病院勤務、看護教員を経て、国立能登青少年交流の家に勤務。定年後、石川県看護連盟幹事長に就任。平成 19 年金沢市議会議員選挙に 63 歳で当選。現在 3 期目。平成 27 年 9 月から半年間、福議長職。現在、女性起業家交流会 in HOKURIKU の副代表、各種団体役員等で女性活躍支援、福祉分野の活動に関わる。常に看護職、女性の視点を大切にし、安心して暮らせるまちづくりに取り組んでいる。
○金沢市議の久保さんは兎に角「頑張れの後押が要る」と強調されました。後援会長でも応援団長でも「やってみます」と声を出して欲しい。[やってみます!!]

もう一つの「やってみます」は政治分野における男女共同参画推進法の成立が大切だと強調されました。

内容としまして第五条に調査及び情報収集、第六条に啓発運動、第七条に環境整備、第八条に人材育成を求めている。国、地方公共団体の皆さんに即、実施して欲しいと、特に地域女性センターは重要な拠点であると述べられました。

看護婦、教員を経て種々社会的な仕事の体験を経て、定年退職後、議員として働き、現在3期目。男女共同参画条例を策定されました。

進行：常光 利恵（石川県各種女性団体連絡協議会会長）

○進行役として最後に、「女性問題については各党派で問題議論はあると思いますが、超党派で審議、話し合う事ですね」と確認されましたが、すべて超党派であると確認されました。

お腹が減っては何とやら!!とおっしゃって石川県のお米百万石（ひゃくまん穀）の塩おむすびを参加者全員に配布していただき、腹ごしらえを致しました。

参加者一同、「さあ!! やってみます!! やっていきましょう!! 議会の景色を変えましょう!!」と云って会場を後にしました。

「日本女性会議 2018 in 金沢」に参加して

目黒女性団体連絡会

目黒母親連絡会 郡 玲子

分科会報告

分科会 4 働き方 ミニ講演・パネルディスカッション

日本のこれまでの労働環境を女性が変える・女性も変わる

～皆が幸せになれる働き方への転換～

「女性活躍」が叫ばれる中で、ジェンダー・ギャップ指数は毎年最低を更新し続け、働く女性の7割以上は管理職への昇任を望まないというデータが出るなど、依然として女性の活躍は進んでいないのが現状です。企業と女性がともに成長し、働きやすい職場を作っていくためには何が必要か、また、女性自身の決意と覚悟を促すために何ができるかを考えます。

コーディネーター：宮原 淳二（株式会社東レ経営研究所ダイバーシティ&ワークライフバランス推進部長）

資生堂に21年間勤務し多岐に亘る業務を経験。人事労務全般に携わる期間が長く、制度企画から採用・研修、男女共同参画・WLB（ワーク・ライフ・バランス）等幅広く担当。2005年度に育児休業を取得。管理職としても多くの短時間勤務者を部下に持ちマネジメント経験が豊富。2011年1月より現職。内閣官房すべての女性が輝く社会づくり推進本部「暮らしの質」向上検討会・座長、文部科学省中央教育審議会・委員、東京商工会議所「多様な人材活躍」識者、国立市男女平等推進委員（有識者）等を歴任。

講師・パネリスト：大槻 奈巳（聖心女子大学文学部教授、キャリアセンター長）

専門は労働とジェンダー、女性のキャリア形成。2001年に上智大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程修了、博士（社会学）。独立行政法人国立女性教育会館研究員を経て、2005年に聖心女子大学の助教授。2007年より、同大学のキャリアセンター長を併任。2013年より、現職。著書は『職務格差—女性の活躍推進を阻む要因はなにか』（2015年、勁草書房）、『大学生のためのキャリアデザイン入門』（岩上真珠との共著、有斐閣、2014年）など。

パネリスト：近藤 宣之（株式会社日本レーザー代表取締役会長）

1994年生まれ。慶応義塾大学工学部電気工学科卒業後、日本電子株式会社入社。1989年、同社取締役米国支配人就任。1994年、子会社の株式会社日本レーザー代表取締役社長に就任。人を大切にしながら利益を上げる改革で、就任1年目から黒字化させ、現在まで23年連続黒字、10年以上離職率ほぼゼロに導く。2007年、ファンドを入れずに役員・正社員・嘱託職員が株主となる日本初の「MEBO」を実施。親会社から完全独立、日本では例のない

Co-owned Business となる。2011 年、第 1 回「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞の「中小企業庁長官賞」など、経済産業省、厚生労働省などから受賞多数。著書に『ありえないレベルで人を大切にしたら 23 年連続黒字になった仕組み』(ダイヤモンド社、2017 年)、『ビジネスマンの君に伝えたい 40 のこと』(あさ出版、2012 年) など多数。

パネリスト：高 由紀（ウイルフラップ株式会社/エキスパート・フラップ株式会社代表取締役・NPO 法人金沢創造会議理事長）

金沢市出身。平成 8 年株式会社フラップ設立。経営理念である『人材ビジネスで社会に貢献する』のもと若年層から高齢者、女性の働くを支援。石川県公共職業訓練校「地域観光科」を運営。また、大学生、自衛官の就職支援講座。企業研修「採用・育成・キャリアプランセミナー」、近年は「生産性向上」の研修等、多業種にわたり講師を務める。コンプライアンスを正しく守って運営する人材紹介・派遣会社の協同組合「人材アットマークステーション協同組合」を設立。理事長を務める。

まず宮原さんから「日本のジェンダーギャップ指数は 144 か国中、114 位と低い。分野別にみると政治参画で最も低い。世界では女性が活躍している。」と問題提起をし、最初に大槻奈巳さんのお話が以下のとおりありました。

1 人生を通じたキャリア形成

職業的キャリア形成だけでなく社会的活動が必要。自分の時間の 5 %は他人のために使うことによりさまざまな経験を通して自分をずっと成長させていくことになる。企業の求める人材は、チームワーク、技能・知識、新しい発想だ。今の学生は自分がどのような人生を送りたいのかあいまい、どう生きるか、どのような人間であるか考えさせている。生涯未婚率も増えている。(1995 年:男性 1.5% 女性 2.5% 2015 年:男性 23.3% 女性 14%) また高齢者とそれを支える人の比率は同じく 1:2.3 から 1:1.3 へと変化している。自分に力をつけ社会の構造を知り、未来を切り開く力が必要となる。いろいろな「前提」を疑うことが大切だ。

2 家族重視モデルから職場重視モデルに

労働市場は男女に中立でない。女性総合職は 2 割強であり 2 年未満で退職している。総合職システムエンジニア (SE) でも、コツコツした作業やサポート、拡張デモでの操作などを担当する女性 SE はスキルを身に付けられない。仕事の割当が平等かどうか。また「女性の視点」という考えは分離を生むなど危険なことがある。知識・技能の得られる仕事につけるようにならなくてはいけない。ここ 3~4 年大手ゼネコンでは補助的な仕事から工事管理の労務に変えるなどの動きがある。管理職志向では 2004 年 女性 25% 男性 53% で他国より両方とも低めである。働く状況が厳しいことの反映か。志向性は置かれている状況で変わる。エリア総合職、一般職はほとんどが女性。転勤のあるなしで雇用区分が分かれている。

3 男性の働き方や生き方を見直す機会

普通に働き続けられることが大切であり、「活躍」しなくてよい。「働き方改革」は職場

自体の改善が必要だ。

近藤宣之さんのお話

人を大切にする経営、働く人とその家族を幸せにすること、多様性を前提に、進化した日本的経営を心がけてきた。顧客満足の前に社員満足が大切だ。

仲間意識も大切で、急逝した社員の遺児を同僚が自主的に勉強をみる、安否確認をするなど支援したという事例がある。毎年、周年パーティーや忘年会を行う、月の残業時間は20時間と制限するなど。個人の事情を優先し希望や意見が自由に言える職場になっている。

通年採用しており、欧米の展示会に毎年会社員の2割を参加させる。それは自己実現、成長につながるため海外出張は教育費と考えている。TOEIC700点以上という条件はあるが。妊娠・出産を理由にやめる人はいない。事務の人が営業職になるなど一人が多くの仕事をするマルチタスクで成長することをめざしている。

外国人もいて、日本人にない発想があり世界経済の中心東アジアで活躍できる人材の条件を体現している。働く人の希望に合わせて在宅勤務や勤務時間の設定など個に向き合う人事で対応している。

このような会社になるためには社長が変わることが大切。会社員を株主にして、経営者は個々の社員の成長を支援するサーバントだと思っている。まず社長室は持たない。異質なものを受け入れ批判や異論に感激する。信頼・魅力・共感、コミュニケーション・モチベーションを大切に、社員に健全な危機意識と圧倒的な当事者意識を持たせることが大事だ。

高 由紀さんのお話

女性が自立するために必要なことを考えて起業した。石川県は女性の就業率が71.2%で全国5位だが管理職の割合は14.7%でワースト10に入る。職業訓練校もやっているが、自分はどちらになりたいのか、何ができるかを考えさせている。

昇進に魅力を感じるようなロールモデルが必要だ。企業研修も行っているが、仕事と子育てを両立できる行動計画の策定にあたっては、無意識のナチュラル男尊女卑が残っていると感じる。それでも産休後の復帰率100%の会社や人事担当管理職になった女性が役員をめざす例などがある。

その後のディカッションでは、出産後も仕事をしたいという割合がふえている、女性の非管理職は管理職への能力の期待レベルが高い一方で自己評価が低い、介護・看護離職は75%が女性である、一人ひとりの事情に応じたマネジメントが必要だ、というお話がありました。また今後に向けては、自分の人生計画を立てることが大切、起こったことは必然として受け止め、悪いことは人のせいにならずに自分の責任と考えること、感謝の気持ちを持つこと、女性も学び変わることが必要だ、



などのお話が出されました

感想

今年4月から女性団体連絡会のメンバーに加わったばかりなので、日本女性会議のこともよくわからないまま参加しました。

開会式の会場である金沢歌劇座ホールに昼前に到着し、周りを見回すと、参加者は女性が多くエネルギーがあふれていました。分科会では労働の分野のお話だったためか、企業などに勤めていると思われる男性の姿も目立ち、現役で働いている若い女性なども参加しており、男女を問わず、男女共同参画への思いが結集した集会であることがわかりました。

特に印象的だったのは、分科会での企業の会長さんのお話でした。一人ひとりの状況に応じた働き方を話し合っていて決めており、社員第一に考えることで女性も男性も働きやすい職場をつくってきたとのこと、制度面で不十分であっても、取り組む姿勢があれば実践できることはたくさんあると思いました。

また女性能楽師の記念講演も、大変、心に残るお話でした。特に古典芸能の世界での女性差別は想像を超えるものがありますが、淡々とした口調で、その時、その時、自身に問いかけながらやるべきこと、やりたいことを継続することの大切さ、また行動を起こすことの大切さについて話され、学ぶものがたくさんありました。

記念シンポジウムでのマスキューダさんのお話も、インドの女性は強さを持っていると感じ、日本人ももっと自分で考え、自分らしい生き方を追求できる条件は十分あると思いました。

今回は金沢という伝統文化が息づく歴史あるまちで開かれた女性会議でしたが、地元の方々がぜひ金沢で大会を開催したいと10年前から各方面に働きかけ、平成24年度には金沢市と男女共同参画に関わる市民団体・グループの協働による「男女共同参画全国都市会議 in かなざわ」を開催するなど、大会準備に携わってきた方々の熱い思いが伝わるものでした。金沢ならではの数々の文化的行事も楽しむことができました。

参加させていただいたことに感謝するとともに、ここで学んだことをどのように生かして活動していくかを考えていきたいと思います。